

「道を切り開く女性たち」

スワプナ・マジュムダール (インド)

マハーラーシュトラ州の Radewadi 村全体に漂う、非衛生的な環境が原因の悪臭に耐え切れず、自分の結婚披露宴から客たちが帰ってしまったことをきっかけに、1991 年、この現状を変えようと、マドゥリ・サワントは決意しました。

14 年後の 2005 年、サワントの村は、マハーラーシュトラ州で第 1 回 Nirmal Gram Puraskar (農村の衛生状態を改善するため、2003 年 10 月に中央政府が設けた賞) を受賞する 12 の村の 1 つとなりました。サングリ県の Radewadi 村は 10 州 443 地区のライバルをしのいで、この賞を勝ち取りました。この賞は、地区内の全世帯にトイレが設けられて屋外排泄はなく、学校や Anganwadi(児童養育センター)には男女別のトイレを確保したコミュニティ又は地方自治政府に与えられるものです。

「お客さんが帰って行くのを見た時はひどくショックを受けました。この村の評判を取り戻す唯一の道は衛生的にすることだ、と気づいたのはこの時です。」とサワントは振り返ります。しかし、言うのは簡単ですが、実行に移すのは非常に困難でした。周囲には衛生の利点というものについての意識がほとんどなく、村民が野原で排泄するのをやめるよう説得するのは至難の技でした。その上、ほとんどの人が、空き地を見つけるとどこへでもゴミを捨てていました。口で説明してもらちが明かないことに気づいた彼女は、同じ考え方を持つ女性たちとグループをつくり、自らゴミを拾い集め始めました。「高位のカーストに属する私がそんなことをするのを見て、皆が驚きました。でも、そうすることで、あの人にできるなら自分たちにもできないはずがない、と皆悟ったのです。村民をなんとか説得して、ゴミは決められた場所に捨て、その後で穴に埋めるようにしました。」とサワントは語ります。

これが大きなきっかけとなりました。彼女の村への貢献が注目され始め、1998 年、村民は彼女を村議会選挙の候補者に推薦しました。選出されるや、サワントは村民説得のために 2 つの戦略を練りました。

村で初めての女性ブラダーン (高位者) として、彼女はまず女性たちに照準を定めました。高名な女医を招いて非衛生的な習慣と感染症との関係を説明してもらい、家にトイレを作る必要性について女性たちを納得させました。また、奥さんが健康であれば相当な金額を節約できるという医者のお話で、男性たちもようやく変わってきました。医療費ばかりか、病院通いのバス代も節約になるであろうと。その上、妻の医者通いに付き添って仕事を休み、その分の収入を失うこともないのです。

しかし、本当に彼女たちの活動を支持する方向へ村民たちを変えたのは、州が後援する Sant Gadge Baba 衛生賞を受賞すれば、村に 20 万インドルピー（約 60 万円）の賞金がもらえる、と発表があったからでした。この事業では、衛生上の必要条件を満たした最優秀 3 村が、奨励金を現金で受け取るというものです。このことが村民を奮起させ、トイレを建てるための借金をいとわなくなった、とサワントは言います。

隣接するサタラ県の多くの村で、衛生設備完備という目標を達成するのに決定的な役割を果たしたのも女性たちでした。サタラ県にある村の自助グループ代表のサンギータ・チクネによると、村にトイレがなく、野原に出て行かねばならないせいでレイプされた少女についての新聞記事を彼女が読み上げるや、女性たちは直ちに理解を示したということです。野外で排泄行為をした男性には罰金 1,000 インドルピー（約 3,000 円）が科せられ、通報者には褒賞金 1,001 インドルピーが与えられるという発表があり、野外での排泄習慣は自然になくなっていきました。

農村部だけで 3,000 万人の人びとが、衛生設備の不備に関連して起こる病気に苦しんでおり、その多くが女性と子どもです。衛生設備の不足の影響を最も受けるのは女性であるため、コミュニティ指導者が女性である場合、村の衛生設備の完備により積極的に取り組んでいます。マハーラーシュトラ州のサングリ県、サタラ県の女性によって、意志あるところには道があるということが証明されました。政府は、2012 年までに全ての村で衛生設備を完備するという目標を掲げています。その目標を達成しようとするなら、女性を指導者とすべきでしょう。



村を変えるために道を切り開く女性たち